

●木津川一斉清掃 250人の参加 28日 山城大橋東詰 10袋 大きい石(不法投棄)

木津川レンジャーや木津川漁協などが主催した取り組みで、里山の会は趣旨賛同で山城大橋東詰を担当することになりました。当日は8名の参加があつて、約1時間の作業できれいに拾いました。ゴミ袋10袋です。ところがここに人力ではとてもは搬出することが不可能な大石が20個ほど放置されていました。不法投棄と思われるものでした。そのほか目についた物としては橋の橋脚に落書きとはとても言えない、すごい絵が描かれています。それも一カ所ではなくて数ヶ所にすごいボリュームを持った素人ではとても描けない調和のとれた作品というものでした。確かに橋の下という制約がありますが、年間何回かのイタチごっこのようなものとなって、消す人書く人となっているようでした。

●南駐車場の草刈完了 本都会場の草刈も完了

新芽の季節は茶摘みや田植えが行われます。新しい命を生み出す季節なのです。野原は忙しくなります。雑草が寒い季節を乗り越えて、活躍の時期が来たと一斉に元気になり、茶色の景色が若緑一色になります。広場として利用する場所にはもっとも嫌な時期になります。雨でも降ろうものならせわしく成長します。春とはそういった時期なのですが、ここを放置すると梅雨を超え、土用を超えると凄いことになってしまいます。ですからこの時期こまめに草刈をしておくことがだいじなのです。

●2016年度助成金申請額 3事業 485万円の合計金額

助成金申請の総合計は485万円とこれまでにない最高額の申請としました。木津川での取組や里山農園の取組で、結成20周年として、木津川植物写真集を最大の成果物として重点を置きました。そしてこれを使つての学習会や説明会、さらに植物への関心を持っていただける人々、さらに自然を大切にする仲間の輪が大きくなることを願った計画しています。そのほか里山農園付近のナラ枯れ木の伐採と植林で、農園作業の安全度の引き上げと再生を目指したいと思います。昨年度設置した竹蛇籠周辺の生き物調査を行いその効果を見届ける観察活動、カスミサンショウウオの住みかの確保などを企画しました。助成金支給が決まりました時にはぜひ多くの方々のご協力をお願いいたします。いずれも結成20年にふさわしい活動であり、成果が期待できるものです。

●結成20周年祝賀会 11日 取り組み進む

■ 出席案内状の発送、300名に手渡し これまで里山の会に入会された皆さんの総人数は880名と整理が進みました。そのうち重複者などを整理し、郵送費節約のため、遠方者の皆さんを除いて直接案内状を届けることにし、手配りによって届けることにしました。多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

■ 感謝状贈呈 20年会員 15年会員 10年会員 合計90名の皆さんへ贈呈を決定。里山の会の20年間で集約した会費は947万円です。そのうちで20年間会員さんは4万円の御協力をいただき、15年間の在籍者は3万円、10年間の在籍者は2万円の御協力をいただいたことになります。こうした皆さんに20年の節目に当たりご支援とご協力に感謝すべきということご案内を差し上げました。万障繰り合わせご出席をお願いいたします。

なお当日はメイン事業として

■ 超高価な鬼志埜焼のお茶碗でお茶会を行います。めったに触れることのない機会ですので、お点前をお楽しみください。

■ **音楽会**では仲良く一緒に楽しいひと時を過ごしましょう、さらに腕をあげられた専属バンドのハナミズキさんと一緒に農園に歌声を響き渡らせ野菜を気持ちよくさせてみましょう。皆さんの美声にウグイスがカブトを脱ぐでしょうか。

■ **ディナー**では若葉で緑いっぱいの9号地の高台で気持ちのいい風に吹かれながら、一緒にわいわい食事を楽しみましょう。皆さんのお話で賑やかな打ち解けあえる場所にしてくださいね。

■ **ビデオ** 木津川に設置した竹蛇籠の記録上映します。またオオムラサキのビデオなども用意しました。周遊通路の散策も楽しんでください。竹とうろ制作もいいですね。くつろぎの時間を堪能しましょう。

■ ホテルの集い

●**里山の会 20 周年の大きな前進社会貢献に自信と確信を持とう** 20 年間年度決算に基づく会費額を積算すると総額 947 万となり約 1000 万円となります。すごい金額が寄せられています。それも徴収に回るのではなく、自主的に振込手数料負担して払い込んでいただいているものです。里山の会への理解がされていなければならない貴重な会費であり、会員から活動への期待が高いものであることがわかります。助成金総額は 2014 万円で、約 20%が賄われています。新しい企画などこうした助成金が無くては会計が回らないと思われます。調査研究など、比較的に地道で質素な活動で、木津川や里山での活動をまとめ上げて、書籍として残し、記録としても保存することができるのは担当者のご理解があって実現できているものです。里山の会の会計決算合計額は、9648 万円(年平均 500 万円)です。振り返るとよくもこれだけの大金を集められて、それを実行してきたものと自画自賛できる代物です、何よりも専従職員がいなくても、多くの発刊物や調査研究資料冊子化が行われました。日ごろからの記録を習慣づけてきた積み上げと思います。同時に支援頂いてきたまた協力いただいた厚いバックと人材の力があつたからです。年間総動員人数も 7000 人を前後する人々と交流が図られ絆を持っているからです。忘れてならないのは 100%ボランティアによる協力が 20 年間維持されてきているからでもあります。

●**ササユリの開花が進む** 里山農園で生育している種屋さんから購入したササユリの扱いを里山の会として 1 日の事務局会議で大論議がかさねられました。「花が咲いてきたので咲かせればいい」「咲かさないのはかわいそうだ」「持ち込んで咲かせるのは間違いと思う」という意見もあった。「農業は汚い、きつい、厳しいという作業である。だから農園で働く人が楽しくなければならぬ、楽しみが必要だ」。との意見もあった。増殖の方針としては、「持ち込み方式は認められない」、「現地現場での移植は可能ならば認められる」「指導をいただいた先生から持ち込みは問題が多い」とある。こうした議論に二分された。約 1 時間 30 分間話し合った。結論としては花が咲いたら雄花を取るなどして交配を不可能にする。開花したとき網をかぶせて昆虫との接触を防止する対策を行い、その後はできるだけ早く移植を行うことで、一致し結論とした。この会議はかなり白熱した熱い議論が展開された。そのほかに、「ササユリの咲くことを楽しみにしている人もいる。ここに元気の源を見出している人もある」といった意見もありました。